

政策の基本	人づくり
人づくりの視点	人をはぐくむ

1 プロジェクトの概要

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生きる力を身に付け、夢や希望を持って成長していけるよう、次の時代を担う子どもたちをはぐくみます。 ○ 一人ひとりの個性や能力を存分に発揮し、夢や目標の実現に向け自らの力で人生を切り拓いていけるよう、これからのとちぎを担う若者の自立する力をはぐくみます。 ○ 自己実現に向けて、様々なチャレンジやキャリアアップに取り組んでいけるよう、大人世代の挑戦を支援します。 ○ 子育てを通して自らも親として成長していけるよう、社会全体で子育て世代の子育て力を高めます。
取組の方向	<ul style="list-style-type: none"> ☆成長の基礎をはぐくむ（子ども世代） ☆生きる力をはぐくむ（子ども世代） ☆自立する力をはぐくむ（若者世代） ☆挑戦する心をはぐくむ（大人世代） ☆子育て力をはぐくむ（子育て世代）

2 成果指標等の状況

成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	目標 H 2 7
① 将来の夢や目標を持っている小学生の割合（小6）	87.6% (H22) 86.8%		87.6% 86.8%	震災の影響で調査が中止となったため、データなし	88.3% 86.7%			90.0%
出典：文部科学省 全国学力・学習状況調査	達成見込		—					
② 「とちぎの子ども基礎・基本」の習得状況（中2）	76.8% (H21)	76.8%	76.8%	72.4%	76.1%			80.0%
出典：県教育委員会「とちぎの子ども基礎・基本」習得状況調査	達成見込	—						
③ 小・中学校における不登校児童生徒の出現率	1.39% (H21) 1.15% 46位	1.39%	1.29% 1.13% 41位	1.26% 1.12% 40位				減少を目指す
出典：文部科学省 学校基本調査	達成見込	—						
④ 新規学卒者（大学）の就職内定率	85.7% (H21)	85.7%	86.7%	88.2%	89.7%			95.0%
出典：栃木労働局調べ	達成見込	—						

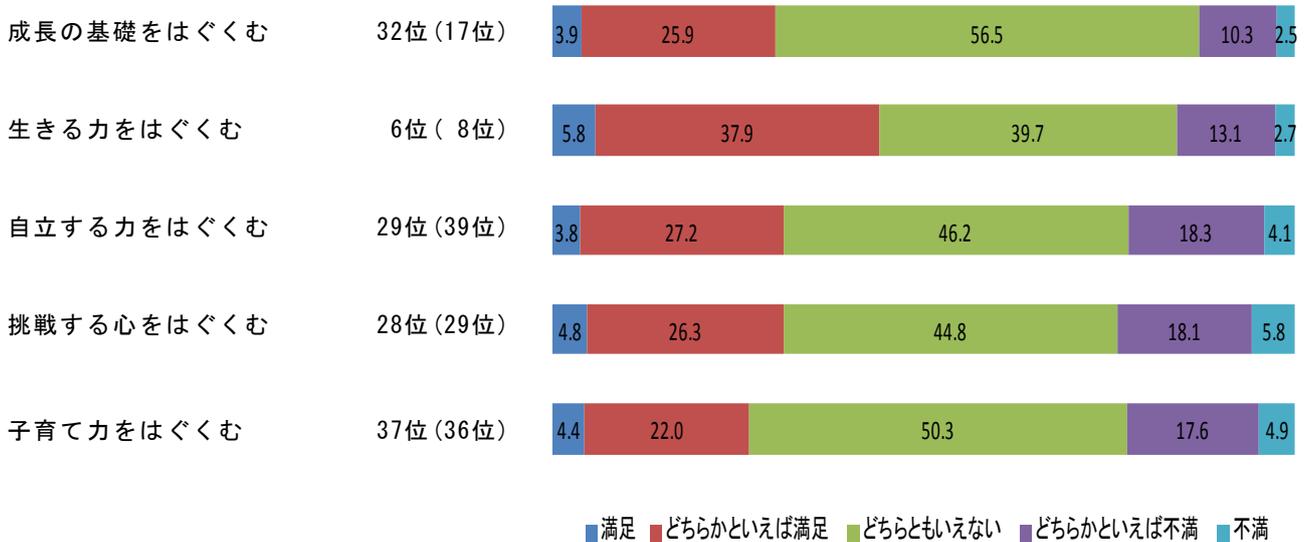
⑤ 特別支援学校(知的障害)高等部卒業者の就職率	30.1% (H21)	30.1%	33.2%	34.0%	38.5%			33.0%
出典：県教育委員会調べ	達成見込	—	☀️	☀️	☀️			

(注) 目標達成見込の判断 ☀️ : 概ね順調 ☁️ : やや遅れている 🌧️ : 遅れている

【成果指標の分析】

- ① 将来の夢や目標を持っている小学生の割合(小6)については、目標達成に向けてやや遅れが生じています。
- ② 習得状況調査の結果分析に基づき、授業の改善プラン作成や学校に対する指導・援助を行うことにより習得状況は上昇しましたが、目標達成に向けて遅れが生じています。
- ③ スクールカウンセラーの配置を増やすなどして、いじめ、不登校に対する相談体制を整備した結果、出現率が減少しています。
- ④ とちぎジョブモールにおいて、キャリアカウンセリングによる専門的な相談を実施するなど、若者の就労支援に取り組んだ結果、新規学卒者の就職内定率が上昇しており、目標達成に向けて概ね順調です。
- ⑤ 企業や障害者就業・生活支援センターなどの就労支援機関と連携を図り、障害のある生徒一人ひとりに応じた職業教育や進路指導に取り組んだ結果、就職率が上昇しており、目標を達成しています。

【平成24年度県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。()内は昨年度の順位。

3 主な取組成果と課題

【成果】
★成長の基礎をはぐくむ(子ども世代)
○就学前教育の充実
<主な取組> ①家庭及び地域における幼児期の教育への支援 幼稚園、保育所が地域における幼児教育の中核的施設となるための研修(パワーアップセミナー)を4回(30名参加)実施しました。

② 幼児教育に携わる教職員の資質向上

幼稚園教諭、保育所保育士を対象とした「スキルアップセミナー」を3回開催（延べ137名参加）し、幼稚園教育要領、保育所保育指針への理解を深めるとともに、食育や表現活動等に関する指導技術の向上を図りました。

☆生きる力をはぐくむ（子ども世代）

○ 確かな学力の育成

《主な取組》

① 「わかる授業」の展開や家庭学習の習慣化等による確かな学力の育成

小学校低学年及び中学校全学年における35人以下学級を実現するとともに、小学校低学年において必要度の高い学級及び特別支援学級を含む指導困難な状況が見られる小中学校に非常勤講師を配置することにより、児童生徒一人ひとりに教師の目が届くようきめ細かな指導の実施が可能な環境の整備を行いました。

また、「とちぎの子ども基礎・基本」習得状況調査を実施し、調査結果の分析に基づく授業改善プランの作成・配布や、学校応援チーム等による指導・援助などを行ったほか、新たな学力向上システムの構築に向けた検討委員会を開催しました。

② 教員OBなどの地域人材の活用による多様な教育活動への支援

教員OBを小・中・高等学校計78校に延べ約138名派遣し、学習支援等を行うことにより、きめ細かな指導を行うことができました。

○ 「心の教育」の充実

《主な取組》

① 豊かな自然とのふれあいや様々な人との交流などの体験活動の充実

青少年教育施設において、高校生ボランティアリーダーを養成するとちぎユースボランティア研修（20名参加）や、不登校や不登校傾向の児童生徒を対象としたふれあいキャンプ・交流会（78名参加）を実施することで、豊かな自然とのふれあいや多様な人々との交流などの体験活動の機会の充実を図り、子どもたちの生きる力の育成につなげることができました。

また、青少年教育施設において防災キャンプや体験活動指導者の養成を行うことにより、子どもたちの防災意識の向上とたくましく生き抜く力の育成を図りました。

② いじめ・不登校などの問題行動等の未然防止や早期解決に向けた支援の強化

スクールカウンセラーの拠点校を継続して拡大するとともに、各教育事務所に配置しているスクールサポーターを増員することにより、学校における相談体制の整備や学校支援体制の強化を図りました。

○ 基本的な生活習慣や望ましい食習慣の習得及びスポーツや文化活動に取り組める環境づくり

《主な取組》

① 「走る・跳ぶ・投げる」など児童生徒の基礎運動能力の向上

「とちぎ元気キッズ育成事業」を展開し、なわとびカードや啓発資料（とちまるステッカー）の作成・配布や学校奨励表彰を実施したほか、プロスポーツチームとの交流などを実施したことにより、家庭や地域でも実践できる運動遊びの奨励などを行うことができました。

《その他》

① 文化活動を支える担い手の育成

情操の涵養と芸術活動への参加機運を醸成するため、児童生徒に伝統芸能や移動音楽教室などの優れた文化芸術を鑑賞する機会を計画的に設けるとともに、文化への理解や豊かな発想力を育成するため、優れた舞台芸術鑑賞や一流の芸術家による実技指導などを行う巡回公演等を70校で実施しました。

○ 障害のある子ども一人ひとりに応じた指導と支援

《主な取組》

① 個別の指導計画等に基づいた適切な指導及び必要な支援の充実

小・中学校から特別支援学校への1年間の研修交流教員に対して、県の指導主事等が訪問指導を行うことにより、特別支援教育に関する専門性の向上を図りました。

② 発達障害児等の支援のための小・中・高の一貫した指導体制の確立

幼稚園・保育所から小学校及び中学校から高等学校（公立・私立）への指導の連続性を確保するため、指導内容等の引き継ぎを実施しました。

☆自立する力をはぐくむ（若者世代）

○キャリア教育の充実

《主な取組》

- ①企業等における多様な就業体験の機会の充実
高校生のインターンシップを充実させるために、受け入れ事業所の拡大と地域や企業との連携強化を目指して9地域で「学校・地域連絡会議」を実施するとともに、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てるため、15校でジュニア・キャリアアドバイザー事業を実施しました。

○社会参加の促進

《主な取組》

- ①ボランティアなどの体験活動の機会の充実
東日本大震災の被災地におけるボランティア活動や訪問活動等を行った各校の特色ある取組の紹介を行ったほか、「ふれあい活動高校生のつどい」において、生徒によるボランティア活動の実践事例を発表することにより、体験活動の機会の充実を図りました。

○就労相談や職業訓練などの支援

《主な取組》

- ①産業技術専門校における企業ニーズに合わせた訓練内容の充実
県央産業技術専門校において、実務的な資格取得の訓練（玉掛け技能講習、フォークリフト技能講習、クレーン特別教育、高所作業車運転特別教育）を実施するとともに、各産業技術専門校に新たにキャリア・コンサルタント（29名）を配置し、ジョブ・カードを活用した就労相談等を実施することにより、訓練内容と就労支援の充実を図りました。
- ②高等特別支援学校の整備推進
平成28年4月の開校に向けて基本設計を実施したほか、特別支援学校モデル校3校において特別支援学校職業教育「福祉科」事業を実施し、大学や高齢者福祉施設の協力を得ながら指導計画を作成しました。また、特別支援学校に就労支援員を配置し、実習・就職先企業の開拓を促進しました。

☆挑戦する心をはぐくむ（大人世代）

○就労支援の充実

《主な取組》

- ①労働局などの関係機関との連携による就職支援の強化
「とちぎジョブモール」において、総合相談やキャリアカウンセリングを実施しました。
- ②離職者等を対象とした職業訓練の充実
離職者等を対象とした産業技術専門校での訓練や民間教育訓練機関等への職業訓練委託により、新たな雇用創出が期待される産業分野での職業訓練を増やすなど、訓練内容の充実を図りました。

○新たな知識や技術を習得し、能力向上を目指すことができる環境づくり

《主な取組》

- ①企業在職者の専門的知識の習得や技能の向上への支援
とちぎマイスター等の「栃木ものづくり人財バンク」に登録されている本県の優れた技能者を講師とし、企業からの依頼に応じて内容を柔軟に設定できる在職者向け技能講習（とちぎマイスター技能向上塾）を新たに実施し、企業からの多様な訓練ニーズに応える体制を整備しました。

○女性が社会の様々な分野でさらに活躍できる環境づくり

《主な取組》

- ①女性の再就職や起業など様々なチャレンジへの支援
とちぎ男女共同参画センターにおいて、様々な分野で活動できる人材を育成するための各種セミナーや父親の子育て参加を支援する講座等を実施しました。また、県民生活活性化基金を活用し、キャリアアドバイザーによる就職相談や就職準備説明会を実施しました。

☆子育て力をはぐくむ（子育て世代）

○親の子育て力の向上とやがて親となる世代の子育て力の育成

《主な取組》

①親学習プログラムの活用など、子どもを育てる親や、やがて親となる世代に対する学習機会の充実
学習機会を提供する指導者を新たに養成（77名）し、市町村や企業等と連携しながら、保護者を対象とした学習機会の拡充を図ることができました（県内434か所で実施）。
また、課題が多様化する思春期の子を持つ保護者を対象に開発した学習プログラムを、中学校や高等学校、特別支援学校のモデル校の保護者会等を中心に実施し、学習機会を提供することができました。

○社会全体で家庭の絆や子育て力をはぐくむ取組の推進

《主な取組》

①「家庭の日」の定着に向けた普及啓発
県有施設における優待制度（県有施設12か所の小人料金無料、優待サービス実施企業57事業所）の実施や普及啓発チラシ（県内小学校1・6年生等）を配布したほか、絵日記コンテストの実施（応募作品1,136点）、各種メディアを活用した広報、啓発協力企業による広報（足利銀行・栃木銀行店舗における電光掲示板による広報）を実施することにより、全県的な普及定着を図りました。

②「とちぎの子ども育成憲章」の普及啓発
学校、関係機関・団体、民間企業等に対して、ポスターの掲示やちらしの配布を依頼するとともに、クリアホルダー（県内小学1年生等）の配布や県内主要メディア（栃木放送、下野新聞）による広報を実施したほか、市町村等の関係機関の広報誌やフリーペーパー等への掲載を行いました。さらに、各種研修会等において憲章の紹介や説明、参加者による唱和を行い憲章の浸透を図りました。

【課 題】

☆生きる力をはぐくむ（子ども世代）

○確かな学力の育成

＜地域社会における様々な学習機会の提供＞

子どもたちに「学ぶ楽しさ」や「学ぶ喜び」を実感させるため、学校では実施することが難しい「本物」に触れる体験や専門性の高い学習機会の提供が課題となっています。そのため、社会教育行政において、高等教育機関、民間企業等と連携した仕組みを作ることにより、子どもたちの興味・関心を一層高め、学力向上へとつなげていく必要があります。

☆自立する力をはぐくむ（若者世代）

○キャリア教育の充実

＜グローバル人材の育成＞

国際社会で活躍できる人材を育成するため、成長の各段階において語学力やコミュニケーション能力、チャレンジ精神等を養う機会の提供が課題となっています。そのため、大学コンソーシアムとちぎ等と連携したグローバル人材の育成を進めていく必要があります。